

2025年度「沖縄県立看護大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム」  
自己点検・評価結果

2025年9月24日  
IR・データサイエンス教育推進委員会決定

## 1. 学内の視点からの点検

### 1.1 プログラムの履修・修得状況

2025年度において、本プログラムの構成科目である「情報学」の履修者は19名であり、全員が単位を取得した。開講学年における本科目の選択率は23.5%であった。今後も、選択率向上のため新入生や在对学生に対する呼びかけを行い、本科目を積極的に履修することの動機づけを行う。

### 1.2 学修成果

授業後アンケートの質問項目「受講して最もよかったことがあれば教えてください。」に対して、「AIの進化や、看護における情報について知ることができた」「AIが理解できたし、知らなかったサイトの使い方もわかった」「AIの上手な活用の仕方がわかった」「データの扱い方がわかった」といった記述が得られた。また、BIツールとLLMを駆使して作成するデータ分析のレポート課題を履修者全員が達成できたことから、数理・データサイエンス・AIのリテラシーレベルの知識およびその活用について、一定の学修成果が得られたことが確認できた。

### 1.3 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

授業後アンケートの質問項目「本コースで学んだ内容を、これからの自分の活動（勉強や仕事、研究など）に活用したいですか？」に対して、「非常に活用したい」は76.9%、「活用したい」は23.0%であり、回答したすべての学生から肯定的な意見が得られた。活用の意図について「活用したい」と回答した理由として「AI時代になっている世の中で、情報やAIを活用することでよりよいものを作っていけると思うから」「論文の構成の仕方や、AI機能のその他の分析アプリなどの使い方を学ぶことができたので、今後上手く活用できれば、効率の良い作業ができると思った」「日常的に使える情報検索ツールの応用も学べ、とても実用的で勉強や仕事への汎用性も高いと感じたから」といった記述が得られた。

また「本コースで学んだ内容を、これからの自分の活動（勉強や仕事、研究など）に活用できる自信がありますか？」に対しては、「非常に自信がある」は15.4%、「自信がある」は15.4%、「どちらともいえない」は61.5%、「自信がない」は7.7%であった。活用する自信について「自信がある」の回答理由として「講義の話を聞いて、課題にも取り組んだため、身についたと思う」「論文型文書の構造や研究方法なども学べ、レポートの作成などにも応用できそうだと感じたから」といった記述が得られた。また、「どちらともいえない」の回答理由として「まだ、完全に習得した訳では無いため、これらを使って身につけていきたいと思ったから」といった記述が得られた。

活用する自信についての昨年度の回答「自分のキャリア、学業に活かせるか実用的なイメージがまだ沸いていないため」を踏まえ、今後の学生生活とのつながりや、医療職とデータサイエンスのつながりをより具体的にイメージできるよう授業内容や演習課題を設定したことで、教育プログラム終了直後の学生の姿勢として教育的に好ましい結果が得られた。

### 1.4 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

授業後アンケートの質問項目「授業の内容は満足できるものであったと思いますか？」に対して、「そう思う」は84.6%、「ある程度そう思う」は15.3%であり、回答したすべての学生から肯定的な意

見が得られた。

また「ほかの学生にも受講を勧めたい内容だったと思いますか？」に対しては、「そう思う」が 61.5%、「ある程度そう思う」が 38.4%であり、回答したすべての学生から肯定的な意見が得られた。このように、満足度および推奨度について受講者から肯定的な評価が得られた。

## 1.5 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

前年度に引き続き、2025 年度も 2 年次の選択科目として開講したため、履修率(選択率)は 23.5%に留まった。履修率を向上させるために、引き続きガイダンス等で履修の推奨を行う予定である。また、選択科目から必修科目へと変更する方向で検討が進んでおり、令和 9 年度以降は履修率 100%となることを目指している。

## 2. 学外の視点からの点検

### 2.1 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

現時点では修了者の評価は行えていないが、プログラム修了者の卒業後の調査を実施し、その活躍状況を評価するものとする。

### 2.2 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

学生の主な就職先は医療機関の看護師であり、本プログラムの内容・手法等に関する意見を医療機関から直接的に得ることは難しい。プログラム修了者の卒業後の調査において履修生本人からの意見を集するとともに、医療業界の動向を注視し、両視点から教育プログラムの改善に繋げる予定である。

## 3. 授業設計と教育実践に関する点検

### 3.1 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

データサイエンスやAIの産業界での活用例だけでなく、学生にとってイメージしやすい医療現場での活用例を多く取り入れることや、進化の著しいLLMを授業に取り入れること、他の看護系講義で学んだ知識を応用できる演習を用意することなどにより、数理・データサイエンス・AIが看護や保健の実践に役立つことを実感し、学ぶ楽しさや意義が感じられるよう工夫をしている。

### 3.2 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

健康データを分析する演習において、使用する分析ツールや手法、他大学の取り組みを継続的に調査し、技術の発展を反映した授業内容となるよう毎年改善している。

## 4. 委員会による評価

### 4.1 プログラムの社会的意義と効果

単に情報の扱い方を教授するだけでなく、全体の授業を通して、社会の変化や予測される将来の課題(人口減少による人的資源の枯渇など)を背景に、情報を扱う意味や必要性を解説する内容となっていることは、受講生の将来の社会生活の在り方に少なからずよい結果を与えることが期待される。同様

に情報を扱う環境（チーム活動の在り方など）についても大きく取り上げており、受講生の社会生活に役立つ内容になっていると考えられる。

#### **4.2 今後改善すべき課題**

- 受講生アンケートの結果から AI やその活用への関心が高いことがわかった。今後の社会の動向も考えると AI に関する内容をさらに充実させることも検討する必要がある。
- 受講生の社会生活に役立っているかを、卒業生アンケートなどを通して検証していく必要がある。
- 2028 年度より必修科目となる予定であるため、多人数の受講生を対象とした効果的な教授方法を工夫する必要がある。